



TITLE:

# マツバガイ(軟体動物門, 原始腹足類)の日本最大の野生個体

AUTHOR(S):

築地新, 光子; 築地新, チサ; 久保田, 信

---

CITATION:

築地新, 光子 ...[et al]. マツバガイ(軟体動物門, 原始腹足類)の日本最大の野生個体. 南紀生物 2002, 44(2): 106-106

ISSUE DATE:

2002-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188290>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

南紀生物, 44(2) : 106, 2002

## 短 報

## マツバガイ (軟体動物門, 原始腹足類) の日本最大の野生個体

築地新光子\*・築地新チサ\*\*・久保田 信\*\*\*

Mitsuko CHIKUCHISHIN, Chisa CHIKUCHISHIN and Shin KUBOTA: The largest wild specimen of *Cellana nigrolineata* (Mollusca, Archaeogastropoda) yet recorded from Japan

本州・四国・九州沿岸に分布するマツバガイ *Cellana nigrolineata* (REEVE) で, 野外から採集された最大個体のサイズは, これまで和歌山県白浜町産の殻長 80 mm・殻幅 68 mm であった (久保田・鳥越, 2000)。本報告では, 九州東シナ海沿岸の磯で採集した, 上記個体をはるかに越える大きさのマツバガイ個体について記録する。

縞模様の個体。重厚な貝殻の表面の諸処に, ヤッコカンザシ *Pomatoleios kuraussi* (BAIRD) と小形のフジツボ類が少数個体見られた。本個体も田中 (1978) による東海区水産研究所構内のコンクリート製小形水槽で, 8 年間で成長し老衰死した巨大な個体 (殻径 10.1 cm) よりも小形であった。

## 日本最大の野生のマツバガイ (図 1)

殻長・殻幅 86 mm・72 mm  
採集地 鹿児島県阿久根市の磯  
採集日 2002 年 4 月 28 日  
その他 殻頂から多数の褐色の放射細帯が走らない縮

## 引 用 文 献

久保田信・鳥越兼治. 2000: マツバガイ (軟体動物門, 原始腹足類) の大形個体. 南紀生物, 42(2), 99-100.  
田中弥太郎. 1978: マツバガイの最大形の記録. ちりばたん, 10(1), 7.

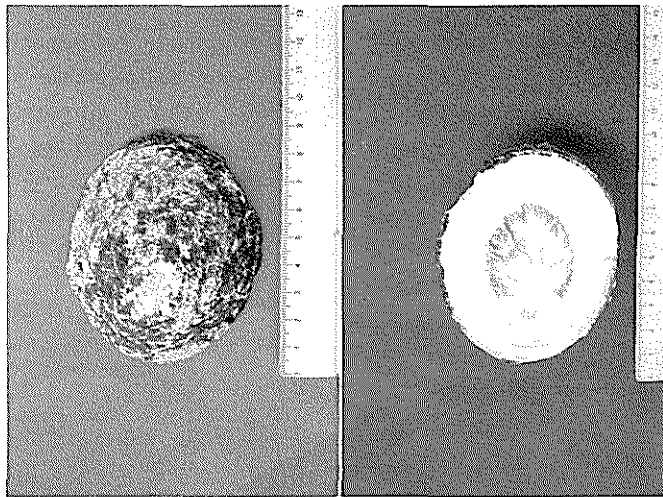


図 1 鹿児島県阿久根市の潮間帯で採集された日本最大のマツバガイ個体 (左: 貝殻背面; 右: 貝殻腹面)  
Fig. 1. The largest wild *Cellana nigrolineata* from Japan, collected in the intertidal zone at Akune City, Kagoshima Prefecture, Japan: dorsal (Left) and ventral (Right) views of the shell.

\* 〒892-0814 鹿児島市本港新町 3 番地 1 かごしま水族館  
(3-1, Honko-Shinmachi, Kagoshima City, 892-0814, Japan)

\*\* 〒899-0213 鹿児島県出水市西出水町 1210

\*\*\* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町)  
Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan